

令和7年度学芸員専門研修アドバンスト・コース実施のお知らせ

国立科学博物館では自然科学系博物館等に勤務する中堅学芸員の方を対象に、一層の資質向上を目的として高度な内容の研修を実施いたします。

1. 主 催：独立行政法人 国立科学博物館、全国科学博物館協議会
2. 期 間：令和7年11月11日（火）～11月14日（金）（4日間）
3. 内 容：
機械資料のメンテナンスを実践的に体験することによって、各博物館の持つ機械資料の活用を目指す実践講座（詳細はP.3）
4. 会 場：国立科学博物館 筑波研究施設
5. 対 象：
自然科学系博物館をはじめ、人文系や総合博物館等に所属し、収集している機械資料の取り扱いについて習得したい中堅学芸員等専門職員の方
6. 募 集：令和7年6月20日（金）から9月7日（日）
7. 人 数：10名程度（定員の半数に達しない場合は中止とすることがあります）
8. 受講者の推薦手続き：
令和7年9月7日（日）までに各所属先の長は適任者を選考のうえ、メールにて次の2点を担当宛てにご送付ください。
①受講申込者調書（別紙様式1） ②推薦書（別紙様式2）
9. 受講者決定：
国立科学博物館長は各所属先の長の推薦に基づいて受講者を決定し、各所属先の長に通知いたします。
10. 修了証書：全課程を修了した方には修了証書を発行いたします。
11. 受講費：
(1) 受講費用は無料です。
(2) 受講に要する教材費等実費・保険料等は受講者側の負担となります。
(3) 希望者に対して、上限を5万円として受講に要する交通費等の支援を行います。
12. 交通費等の支援範囲
本研修に参加するための往復交通費及び宿泊費
(参加者の所属する館園から研修開催場所までの往復交通費。宿泊費は当館の規程に基づいて支給。)

講座のねらい

博物館の片隅に、古い柱時計や蓄音機が眠っていることはありませんか。博物館や郷土館などでは市民から寄贈されることも多いと思いますが、ほとんどは動かすことなく保存されているのではないのでしょうか。これら人々の生活とともにあった機械は、もし動かすことができれば、当時の記憶を呼び戻すなど、魅力的な展示品となるはずです。

機械式の柱時計や蓄音機は、手入れをすれば百年を超えて使用できます。しかし一方で、メンテナンスの仕方を間違えると、摩耗や破損などで、駄目になってしまったり、再び動かすためには大規模な修繕が必要となってしまいます。

本講座は完全な時計修理の技術を学ぶものではありません。この講座では実際に柱時計のメンテナンスを体験することによって、機械資料一般に通じる取り扱いに抵抗を無くすことを目指します。この講座を通して、博物館の片隅に眠っている機械類のいくらかでも活用できるようになれば幸いです。

スケジュール

期日	時間	内容	会場
11日 (火)	12:30～13:00	集合・受付	国立科学博物館 筑波研究施設
	13:00～13:30	開講式・オリエンテーション	
	13:30～14:00	講座概説	
	14:00～16:00	科博所蔵の理工系資料 (理工資料棟見学)	
	16:00～16:30	情報交換会	
12日 (水)	9:30～12:30	機械式時計の特徴と取り扱い	
	12:30～13:30	昼食・休憩	
	13:30～16:30	ボンボン時計の分解	
13日 (木)	9:30～12:30	ボンボン時計の分解 その他機械資料の取り扱い	
	12:30～13:30	昼食・休憩	
	13:30～16:30	機械資料の特徴と取り扱い	
14日 (金)	9:30～11:30	総合講座 「サイエンスコミュニケーション基礎講座」	
	11:30～12:00	閉講式	

詳細

11月11日(火)

○講座概説

時間：13:30～14:00

講師：産業技術史資料情報センター センター長 前島 正裕

内容：本講座のねらいと注意点を説明する。

○科博所蔵の理工系資料

時間：14:00～16:00

講師：産業技術史資料情報センター センター長 前島 正裕

内容：理工資料棟を見学し、様々な理工系資料を見学し、科学・技術史資料の保存とその意義を考える。

○情報交換会

時間：16:00-16:30

講師：産業技術史資料情報センター センター長 前島 正裕

内容：各館の課題等についての情報交換を行う。

11月12日(水)

○機械式時計の特徴と取り扱い

時間：9:30-12:30

講師：産業技術史資料情報センター センター長 前島 正裕

名誉研究員 佐々木 勝浩

内容：機械式時計の基礎と歴史について紹介する。

実際の柱時計（ボンボン時計）や和時計、懐中時計の中を見て、その構造を学び、ボンボン時計の分解に挑戦する。

○ボンボン時計の分解

時間：13:30-16:30

講師：産業技術史資料情報センター センター長 前島 正裕

名誉研究員 佐々木 勝浩

内容：分解されたボンボン時計の組み立てに挑戦する。

11月13日(木)

○ボンボン時計の分解、その他機械資料の取り扱い

時間：9:30-12:30

講師：産業技術史資料情報センター センター長 前島 正裕
名誉研究員 佐々木 勝浩

内容：博物館でよく見かける機械資料、蓄音機や手回計算機等も、取り扱いは時計に準じる。その構造や取扱について紹介する。

○機械資料の特徴と取り扱い

時間：13:30-16:30

講師：産業技術史資料情報センター センター長 前島 正裕
内容：蓄音機や手回計算機等の取り扱いについて紹介する。

11月14日(金)

○総合講座「サイエンスコミュニケーション基礎講座」

時間：9:30-11:30

講師：国立科学博物館学習支援部学習課 係長 小川 達也

内容：各館で実施している事業の情報交換を含めた、博物館におけるサイエンスコミュニケーションの実践と活用について。

※資料を扱う際に油跳ねがあるかもしれないので、作業着や白衣、エプロンなど汚れても良い服装をご用意ください。

○問い合わせ先及び受講申込者調書等の提出先

国立科学博物館 学習支援部 学習課

学習支援担当 小林・鈴木

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL:03-5814-9187・9166

E-mail:jinzai@kahaku.go.jp

筑波研究施設へのアクセス



つくば駅（つくばセンター）→国立科学博物館筑波研究施設（西門）

■路線バス

つくば駅隣接の「つくばセンターバスターミナル」から下記の路線バスをご利用ください。

- ・つくバス 北部シャトル（3番乗り場）
→「天久保（筑波実験植物園前）」下車（片道約5分、200円）→徒歩5分
- ・関東鉄道 テクノパーク大穂行き（5番乗り場）
→「筑波技術大学産業技術学部」下車（片道約5分、230円）→徒歩5分
- ・関東鉄道 筑波大学循環左回り（6番乗り場）
→「天久保池」下車（片道約7分、230円）→徒歩10分

■タクシー

「つくばセンター」から「筑波実験植物園」までご利用の場合、5分ほどかかります（約3km）

学芸員専門研修アドバンスト・コース 受講申込者調書

令和 7 年 月 日

ふりがな			年齢	
氏名				
所属	名称			
	職名			
	職務内容			
	所在地	(〒 -) TEL - -		
	メールアドレス			
	緊急連絡先			
所持資格 (資格取得年月日)		(年 月 日)	(年 月 日)	
博物館の経験年数		年	ヵ月	
当館で実施した学芸員 専門研修の受講歴				
所属館等での担当分野 (ご自身の専門分野と異なる場合は 専門分野も()書きでご記入ください)				
受講希望動機				
交通費・宿泊費の支援 (上限5万円)		希望する	・	希望しない
支援を必要とする理由を ご記載ください (上記で希望すると回答した方のみ)				
本研修で学びたい事・ 疑問点などご自由に ご記載ください				

※国立科学博物館学習支援部 学習課 学習支援担当宛にお申し込みください

推 薦 書

令和 7年 月 日

独立行政法人
国立科学博物館長 殿

所属先の長
氏 名

学芸員専門研修 アドバンスト・コース受講者の推薦について

このことについて、下記の者を推薦します。

記

所 属 ・ 職 名	氏 名